

# 国東半島宇佐地域 世界農業遺産 国際セミナー

平成 26 年 5 月 15 日（木）

ホテル清照



## 報告書



国東半島宇佐地域  
世界農業遺産  
Kunisaki Peninsula Usa GIAHS

国東半島宇佐地域世界農業遺産推進協議会

## 「国東半島宇佐地域世界農業遺産国際セミナー」概要

### 1. 目的

中国における世界農業遺産の中心的な活動をしている関教授をはじめ、各地域の専門家によるアジア各国の取組を紹介することにより、国東半島宇佐地域での世界農業遺産のさらなる保全と活用を推進する。

### 2. 概要

- (1) 主催 国東半島宇佐地域世界農業遺産推進協議会  
九州大学大学院農学研究院農業資源経済学部環境生命経済学研究室
- (2) 日時 平成26年5月15日(木) 13時30分～16時50分
- (3) 場所 ホテル清照(豊後高田市)
- (4) 次第  
13:30 開会あいさつ(林会長、矢部教授)  
13:40 基調講演 中国科学院地理科学・資源研究所 関<sup>みん</sup>慶文<sup>ちんうん</sup> 教授  
14:50 講演 佐賀大学農学部生物環境科学科 李<sup>り</sup>應<sup>おん</sup>喆<sup>ちよる</sup> 講師  
15:20 講演 静岡大学大学院農学研究科 稲垣 栄洋 教授  
15:50 講演 立命館アジア太平洋大学アジア太平洋学部  
ヴァファダリ カゼム 助教  
16:20 講演 フィリピン・イネ研究所 遺伝資源部  
ロイダ モレノーペレス 主任科学研究员

### 3. 参加者

農業経営者、土地改良区関係者、行政関係者、大学関係者、一般等 計140人

### 4. 挨拶

#### ○林浩昭会長

今日は世界各国で世界農業遺産の推進に携わられている方が一堂に会しており、このような場は日本でも初だと思う。先月中国で行われた東アジア農業遺産会議に参加したが、高齢化する農業の問題は中国でも共通した課題だった。今回の行事がこの地域の発展、世界にとっての礎になればと思う。



林浩昭会長

#### ○矢部光保教授

現在、世界の31カ所のジラスサイトのうちアジア地域が半分以上を占めています。今日の報告で取上げる中国には11カ所、日本は5カ所、韓国は2カ所、フィリピンには1カ所のジラスサイトがあります。これから報告される中国、韓国、静岡、大分、フィリピンの事例から、世界の大きな流れと日本の取り組みを知ることができると思います。



矢部光保教授

## 5. 講演概要

### ○基調講演「中国での世界農業遺産の導入」

中国科学院地理科学・資源研究所 みん ちんうん 閔 慶文 教授

来年、中国ではジアス認定 10 周年を迎えます。特に、水田農業システムについては、中国が最初に認定を受けました。この 10 年間の活動を通して 4 つの成果が得られました。1 つ目は、ジアスという考え方が国際的に知られたこと。2 つ目は、生物多様性の保全政策が各国の政策に取り入れられたこと。3 つ目は、世界のパイロットサイトで 2 つ目の考え方が活かされていること。4 つ目は、ジアスサイトの保全が地元コミュニティの発展につながると認識されたこと。これらを効果的に管理することで、各国とのネットワークを確立させることができます。

先月、中国では、新たに 3 つのジアスサイトが加わり全部で 11 となり、中国全土に広がっています。そのなかで、雲南省にあるサイトでは、大規模な棚田が特徴で 1 万年以上も前から稲作が続けられていたということも判明しています。私たちは、常に地元の方がいかに関わるかを考えています。中国でも、ジアスのラベルを貼った作物を高値で販売し、農家の収入を上げていくことや、農家同士で情報を共有することは大事な取り組みです。

世界遺産に比べて世界農業遺産は知名度が低いため、メディアや雑誌、専門誌を活用し、重要性などの広報に努めています。おかげで、今では農家の方々をはじめ、国民の多くが関心を向けるようになりました。中国では政府、科学者、地域コミュニティ、企業等が連携してジアスに取り組んでいます。他方、今後の課題としては、一般の政策に取り込むことです。中国でも都市化が進んでおり、農業においても産業の近代化と環境保全の両立が重要です。そこで、提案ですが、地域の開発計画にジアスを取り入れてみてはどうでしょうか。先進国である日本でも、ジアスに取り組むことで地域の活性化を図ることができると思います。

### ○講演「韓国における世界農業遺産の現状と制度」

佐賀大学農学部生物環境科学科 り おんちよる 李 應 喆 講師

韓国では、ようやくこの 4 月に初めて 2 つのサイトが世界農業遺産に認定されました。韓国では、日本の佐渡と能登が認定されたとの情報を得て、チェジュド チョンサンド 済州島と 青山島の認定を目指しました。両方とも小さな島ながら伝統的な農業が遺されています。済州島では風が強いので、風防のため、すき間だらけの石垣が存在しています。加えて、石造物やお墓など、文化の中に石が根付いています。今後は、石垣の価値を継承して、観光振興に活

かしていきたいと考えています。また、青山島のジアスサイトは、オンドル（暗渠）式の棚田が特徴です。この地域では水が少なく、その確保のために暗渠が必要となりました。

韓国では世界農業遺産の支援制度があり、現在では、13 カ所が韓国内の農業遺産に認定されています。韓国でも、日本と同様に、農業の担い手不足が深刻な問題となっていますが、世界農業遺産認定を機に、農業振興を図っていききたいと考えています。



みん ちんうん 閔 慶文 教授



り おんちよる 李 應 喆 講師

## ○講演「世界農業遺産『静岡の茶草場農法』とは」

静岡大学大学院農学研究科 稲垣 栄洋 教授

農産物をブランド化していく上で、これまでは頂点を目指していました。しかし、これからはオンリーワンの時代です。そして、今まで当たり前とっていたものが、実は非常に個性的なものであり、価値があるものであることが認識される時代になってきました。

さて、静岡の茶草場農法のコンセプトは、お茶の生産が生物多様性を保っていることです。茶草場農法とは、茶畑の周囲にある雑草地を刈り取り、茶畑の間に敷き詰める農法で、味が良くなるために続けられています。刈り取った草地では、様々な草花が保たれています。人間が管理することで保たれる自然、というのが世界農業遺産たる所以です。茶草場の価値は、農業生産性と生物多様性が共存していること、近代化した農業の中で生物多様性が守られていること、そして、昔からの土地利用が今も行なわれていることの3点です。



稲垣栄洋 教授

しかし、この意味は一般的には理解されにくく、「茶草場<sup>ちやくさば</sup>」もそうでした。もともと、このような言葉はなかったのですが、この言葉を使い始めるようになって、次第に知名度があがってきました。

このほか、農業者自身に農業遺産の価値を理解してもらうため、ワレモコウなど3つの植物に絞って、茶草場にあるか否かを調べてもらう活動を行いました。世界農業遺産認定後の取り組みとして、農家そのものをブランド認定しており、現在 530軒が認定されています。その結果、今や農家が自ら世界農業遺産のポスターを作るほどに活動が深まってきました。その理由は、農業遺産の取り組みにおいて、人が主役だからです。

## ○「世界から見た国東半島宇佐地域」

立命館アジア太平洋大学アジア太平洋学部 ヴァファダリ カゼム 助教

国東半島の農業を考えると、様々な視点が見えてきます。国東には多くの農業システムが非常に長い間、残され維持されてきました。

さて、かつて FAO は、グリーンレボリューションという、たくさんモノをつくり、輸出することが大事という、今とは逆の方針を持っていました。昔は自給自足が当たり前で、農業は生活の糧を得るためのものでしたが、今はライフスタイルとしての農業が見直されています。人口は減り続け、高齢化もさらに進んでいますが、このことは国東半島も韓国でも同じです。小規模ながらも農業を維持していかなければ、将来は大変なことになると考えています。そのためには、田舎ならではの価値を作っていく必要があります、それを紹介することで都会からも注目されます。国東半島の特徴は、何と言っても、ため池による農業システムです。また、シイタケは有機栽培であり、有機栽培も世界で浸透しつつあります。さらに、フィリピンのイフガオでは世界農業遺産認定を機に、観光客が増えており、国東半島も将来そうなると思っています。しかし、そのために、農業者が自信をもって、国東の価値を説明できるようにならないといけません。

国東半島はそもそも雨量が少なく、さらに急斜面という半島特有の性質ため、雨水はすぐに海に流れ出てしまいます。そのため、昔から多くのため池が作られてきました。これは地域のコミュニティが強かったからこそ成し遂げられたことと思います。

世界農業遺産の窓口は地域の人々です。ですから、グリーンツーリズムを振興するときのように民宿が大切で、そこから国東半島の魅力を伝えることができます。今はウォーキングコースも開発されつつあります。神仏習合文化もここしかありません。国東半島を見るだけで、日本の縮図を見ることが出来ると思います。



カゼム 助教

### ○「フィリピン在来のコメ品種 遺伝子の識別と固有生息環境以外での保全

フィリピン・イネ研究所 遺伝資源部 ロイダ モレノーペレス 主任科学的研究員

イフガオの棚田は、イフガオ族が先祖代々伝えてきたものです。フィリピン政府はその保護に力を入れていますが、5%の農業者だけが伝統的農業を継承しているだけです。お米の在来種は17種ありますが、我々の課題はその在来種を守ることです。各地方には、高価値をもつ在来品種があります。在来品種を保存するため、栄養素などを調べ、生産性に挑戦するコンテストもその手段の一つとして行っています。また、農家は情報不足、貧困など多くの問題を抱えています。政府には相談センターがあり、このような問題に対応しています。在来品種は、政府が管理し維持できるようにして、地域振興に役立てようとしています。



モレノ・ペレス研究員



(会場を埋め尽くす参加者)